

皆さま、おはようございます。
日本高等学校教職員組合第117回の定期大会にご参集の大会代議員の皆様、関係機関・報道関係の皆様、お集まりいただきありがとうございます。日高教で中央執行委員長を務めております、栃木高教組出身の田村 巳知男と申します。定期大会の開催にあたり、日高教を代表してご挨拶申し上げます。

本日はご多用のなか、ご来賓として、
公務公共サービス労働組合協議会から
吉澤伸夫(よしざわ のぶお)事務局長様、
全日本教職員連盟から
郡司隆文(ぐんじ たかふみ)委員長様、
西日本ブロック教職員団体連絡協議会から
大分県公立高等学校教職員組合の
中村高志(なかむら たかし)執行委員長様
自由民主党本部から
伊藤和久(いとう かずひさ)組織運動本部労政局担当部長様、
国民民主党から
田鹿 文隆(たじか ふみたか)企業団体委員会部長様、
立憲民主党から
坂上 隆司(さかがみ たかし)団体交流担当部長様、に

ご臨席を賜りましたこと、さらに、平素から私ども日高教への温かいご理解とご支援をいただいておりますことに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

東日本大震災からは8年あまり、熊本地震から3年あまりの時間が経過しました。また、全国ではそのほかにも多くの災害が発生しています。私たちはこれらの災害と、災害を経験して得た教訓を決して風化させてはなりません。

日高教は、今後も、被災地を支援する活動を模索しながら、被災地の早期の復興・再生、そして被災者の方が一日も早く安心して生活することができるよう、引き続き取り組んでまいります。皆様方におかれましても、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

この117回定期大会は、今年度の日高教運動方針を決定する最高意志決定機関です。代議員の皆様からは事前に、新しい教育制度や私たち教職員の待遇、日高教の組織のあり方などについてなど、多くのご質問をいただいております。ありがとうございます。建設的な議論とともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

これらの具体的な項目や課題については、この後の一般経過報告、議案説明のなかで触れさせていただき、議論させていただきたいと思います。私からは、日高教の今後の取り組みや本年度の運動方針の検討に資する観点で、ご挨拶させていただきます。

みなさん、そもそも、労働組合とは何でしょうか。組合活動とは、一人で主張しても何ら改善できない給与や勤務条件等についての要望を実現するため、働く仲間同士が、働く人の立場で考え、みんなで取り組む主体的な活動です。個人のメリットだけで加入するものではなく、みんなにとってのメリットとなることを、みんなの力で求め、勝ち取っていくものです。組合は、学校現場の意見や要望を「職場の声」として教育行政に反映させる、最も有効な手段です。「みんなで、みんなのために」という助け合いの精神、互助の精神が組合活動の礎であるということです。

先月27日、労働組合のナショナルセンターである連合が主催した中央メーデーにおいて、連合の神津会長が、挨拶の中で、次のような言葉を述べられました。「まさに私たちはこの働き方改革をすべての働く仲間のものとしていかなければなりません。長時間労働を是正して、過労死、過労自殺を根絶して、それを第一歩として、すべての働くものための働き方改革にしていこう、そういうことを申し上げておきたいと思っております。長時間労働の是正も、36協定も、同一労働・同一賃金も、労使関係がないとダメじゃないですか。労働組合がないとダメでしょ。機能しないでしょ。そのことを世の中に我々、大いに訴えていかなければいけないと思っております。」

連合の神津会長は、このように、労働組合の存在意義や誰一人として労働者を置き去りにしないという固い決意を述べられていました。

ここ数年、何かと働き方改革というフレーズを耳にすることが多く、私が在籍している栃木高校でも、同僚の間から、この仕事のやり方って、働き方改革的にどうなんだろうという声もよく聞くようになりました。しかし、中教審が答申で提示した業務改善では限界がありますし、変形労働時間制では、対症療法にすぎません。やはり、多忙化解消のための実効性のある働き方改革は、教職員定数の改善、この一言に尽きるのではないのでしょうか。文部科学省は、教職員が教職員でなければできないことに全力投球できるよう、保護者や地域をはじめとする社会全体に対し、何が教職員本来の役割であるかというメッセージを繰り返し伝えるなど、学校と社会の連携の起点・つなぎ役としての責務をしっかりと果たしてもらおうとともに、教職員定数の改善を最優先に実現してほしい。これが現場の最前線に立つ教職員の強い願いです。

現代の若者は敏感です。他の業界に比べると突出した学校の長時間労働や、保護者への対応による精神的ストレス、部活動の指導で休む日がない、などの過重労働・過密勤務など、若者はこのようなブラックな労働環境を鋭く察知しています。例えば、4パーセントの教職調整額で、何時間働いても残業代は支払われない公立学校教員の状況は、「定額働かせ放題」という表現で、各種マスコミでも取り上げられるようになってきました。

厚生労働省の過労死白書のなかで、過労死等が多く発生しているとの指摘がある重点業種が5業種挙げられています。その中に、自動車運転従事者や、IT産業、外食産業、医療と並んで「教職員」が挙げられているのです。

皆様もご存知かと思いますが、教員採用試験の倍率は、全国的に年々低下傾向にあります。また、文科省の調査によると、全国の国立教員養成大学卒業生全体に占める教員就職率は、昨年3月卒業者のデータになりますが、58.9パーセントと減少傾向が続いております。すなわち、教員を目指して大学に入ったものの、約4割が教員以外の職に就く教員離れが進行しています。都道府県教育委員会としても、いかに教員として働くことの魅力を発信して、優れた人材の確保に努めるか、頭を悩ませているところでもあります。みなさん、新潟県の小学校教員採用試験の倍率は何倍かご存知でしょうか。なんと、2019年度にいたっては、1.2倍という極めて危機的状況であります。

ブラックな学校現場を敬遠して、優秀な人材が民間や他の公務員に流出していく。これは、一刻の猶予も許されない、日本国喫緊の課題であり、まさしく、国家存亡にかかわる一大事だと私は思っています。

教育は国家百年の計であり、防衛と同じく国の根幹にかかわる事柄で、子供たちの未来に直接つながる極めて重要な職です。教育とは人であると言われますが、教員によき人が得られないなら、日本の国力は衰退していく一方でしょう。専門職としての高度な資質・能力とともに、教育に対する誇りや使命感を持った、よき人材を得るためにも、日高教は、現在進行中の「働き方改革」の一層の推進と教員の処遇改善を中央省庁などに働きかけをして、全力で取り組んで参ります。

私たち組合員一人一人が、各単組の組合活動に当事者意識を持って真剣に取り組むことは、今の私たちの勤務条件や職場環境の改善に資することはもちろんですが、それだけにとどまらず、将来の優秀な教員候補者が、教育の世界に就くことをあきらめさせないことにも繋がることなのです。

私は公民科の教員ですが、政治・経済や現代社会の教科書などに国連を扱うページがありますが、そこでは、「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という文言がでています。私はこのユネスコ憲章前文を、教育こそが世界の平和及び安全の礎である、と私なりに解釈しています。その教育に携わる私たちが安心・安全に、そしてやりがいを持って働けずして、子どもたちに明るい未来はありません。

組合員の皆様が、公私において充実した日々を送れること。そして、健康で元気に子どもたちの前に立てることが、何より大切なことです。日高教は、教職員が、自信と誇りを持ち、本来やらなければならない職務に専念できる職場環境の整備を最優先に取り組んでまいります。そして、「信義と友愛」の旗印のもと、「是々非々」「不偏不党」の立場を堅持し、引き続き、教育諸問題に真正面から向き合い、課題解消や勤務環境等の改善を実現すべく、しっかり努力いたします。

挨拶の最初にも申し上げましたが、本日の定期大会は、今年度の日高教の運動方針を決定する最高の意志決定機関です。団結・連帯に勝る力はありません。代議員の皆様には建設的な議論とともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうか皆様の知恵と力をお貸しください。そのことが、組合活動の活性化、発展につながり、取り組みの成果や組織の拡充とともに、明るい未来の創造につながると確信しております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。